



TURNING POINT

3

## 建築家からの提案

Interview 畝森泰行さん

フロアをずらして重ねるダイナミックな構造  
“融合”のコンセプトも建築的に表現

平成25年、市民交流センター  
のプロポーザルが始まるにあたり、まずは街を知ろうと須賀川  
に行ってみました。震災から2  
年ほど経っていましたが、松明  
通りは人通りが少なく、だから  
こそこれから作られる市民交流  
センターの意義もよくわかりま  
した。須賀川の第一印象は、坂  
が多く、人が明るい街。その明  
るさが地域全体に広がる、そん  
な建物を提案したいなと思いま  
した。建築で明るさを表現する  
にはガラス張りにしがちですが、  
ガラス越しではなく直接人が見  
えるようにしたいと、テラスや  
吹き抜けを作ろうと考えました。  
この建物は、各フロアを少しず  
つずらしながら上に重ねる構造  
です。通常であれば1階から大きな柱  
を立てる必要があるのですが、  
1階は遠くまで見渡せる「通り」  
のような広い空間にしたかった。  
柱を使わず実現するため、3階

と4階の床の一部をトラス梁を  
使った頑丈な構造にし、そこか  
らずれた床を吊り上げています。  
プロポーザル時点では、図書館  
のフロア、公民館のフロアとい  
うように機能別に分けて考えて  
いましたが、ワークショップで  
「子どもの遊び場のそばに絵本  
もあったほうがいい」とか、「料  
理教室にレシビや食育の図書も  
あると嬉しい」という意見があ  
り、図書は図書館エリアにあれ  
ばいいわけでもないんだな、とわ  
かりました。そうしたことから  
施設全体が図書館で、施設全体  
に市民活動の場がある、「融合」  
というコンセプトに至ったので  
す。すると今度は、各フロアをず  
らすという当初の計画のままでは  
「融合」に合わないのではと  
気づきました。各フロアの建築  
的なつながりとはなんだろうと  
悩んだ末に、緩い階段や長いス  
ロープ、ブリッジで繋げる今の  
プランに至ったのです。結果的



畝森泰行建築設計事務所  
畝森泰行  
第28回新建築賞などを受賞。住まいで過ごす個人の感覚の延長が公共施設の中にもあることを大切にしている。

に、緩やかに各フロアをめぐつ  
ていく動線が生まれ、連続的な  
体験ができる建物になりました。  
特に床全体が傾斜している1階  
は、坂の多い須賀川の街が入り  
込んだような、この場所ならで  
はの自然な空間が生まれたと思  
います。  
複雑で変わった建物のように  
思うのですが、須賀川のみなさ  
んは前向きでした。使う人が面  
白ければ建築はよくなる。そん  
な施設になってほしいです。

TURNING POINT

4

## 設計チームとの協働

Interview 石本建築事務所

tetteは、  
複合施設の新しいプロトタイプになる

設計プロポーザルの段階から  
「大きな賞を取った若手建築家  
を入れること」が条件でした。  
畝森さんには直接会いに行つて、  
人柄を含め、チームと一緒にや  
っていく上でのバランスを取れ  
る方だと思いました。畝森さん  
と当社で「フラットな関係を築  
きましょう」と確認し合い、共  
同設計がスタートしました。

最初に着手したのは体制作り。  
須賀川市の場合は幸か不幸か、  
施設内の機能については明確に  
決まっています。最初は、最初  
は田谷英二ミュージアムも入っ  
ていなかったし、我々もレスト  
ランを作りましょうなんて言っ  
ていたんです。とにかく基本設  
計を決める作業が大変でした。な  
まずは須賀川市で市民ワークシ  
ョップを25回行ったのですが、  
そこで市民の方から震災の話が  
出た。「震災後、それまであま  
りお付き合いのなかった地域の  
人たちと助け合い、つながりが

できました」という話があり、  
とても印象に残りました。  
複合施設とはどうあるべきか。  
通常では1、2階が図書館で3  
階が公民館というように、階に  
よって機能が分かれるのですが、  
それでは複合である意味がない。  
図書館に行った人と公民館に行  
った人たちが、偶発的に出会え  
るように設計することで、「地  
域での横のつながりがない」と  
感じていたという「市民の思い」  
を建築的に解決しようと、「建  
物全体が図書館であり公民館」  
となりました。運営も一元化す  
るよう橋本市長にお願いし、関  
係各課を統括する専門部署とし  
て平成26年4月に「市民交流セ  
ンター整備室」が設置されまし  
た。市役所内だけでなく、設計  
事務所、コンサルタント(図書  
館や市民協働など)、アートデ  
イレクターといった各専門分野  
のコーディネーターらが横の繋  
がりを作って推進していく手法



株式会社  
石本建築事務所  
数百人の建築設計の専門家  
集団として、小学校・庁舎  
他、全国に多くの公共建築  
の実績を持つ。

十河一樹

佐藤維